

連載 登録医のご紹介

ベルランド総合病院広報誌「ベルフォーラム」

# Bell Forum

地域と職員とともに栄えるチーム

医療最前線

## 腫瘍内科・呼吸器内科

2019  
Winter  
No. 66

### TOPICS

院内研修会：感染管理・医療安全 開催報告  
いづみ健老大学にて講演会を行いました  
第11回緩和ケア研修会 開催報告  
藍野大学にて講演会講師をつとめてまいりました  
リソースナース研修会 開催報告  
第14回泉北地区病診連携皮膚科の会開催報告  
第23回ベルランド地域医療懇話会のおしらせ



# 腫瘍内科・呼吸器内科



ベルランド総合病院 腫瘍内科・呼吸器内科は、呼吸器感染症、慢性閉塞性肺疾患 (COPD)、気管支喘息、間質性肺炎、呼吸器系腫瘍 (肺癌) などの呼吸器疾患全般の診療にあたっています。

## 呼吸器腫瘍

肺癌の治療においては、呼吸器外科、放射線治療科との緊密な連携のもと集学的治療を提供できる体制を整えています。

肺癌の薬物治療の進歩は目覚ましく、従来の抗がん剤に加えて、特定遺伝子に対する分子標的治療薬や、免疫チェックポイント阻害薬が使用できる環境が整っています。薬剤部との連携により、病院全体として有害事象の対策にも取り組んでいます。特に、免疫チェックポイント阻害剤は従来の抗がん剤の有害事象とは異なり、免疫関連の有害事象が出現することがあり、院内連携を密にし、対応を行っています。

近年、「がんゲノム医療」の進歩により、がん治療において遺伝子情報に基づく個別化治療を行う体制づくりが進められています。現在全国に 11 か所の「がんゲノム医療中核拠点病院」と、中核拠点病院に準じた「がんゲノム医療拠点病院」、中核拠点病院と連携をとる「がんゲノム医療連携病院」が指定されています。

当院でも、大阪府がん診療拠点病院として、がんゲノム医療を進めるべく、「がんゲノム医療連携病院」の指定に向け体制整備を進めています。

## 気管支鏡検査

当院では従来の気管支鏡に加え超音波気管支鏡(EBUS)を用い、診断率の向上に努めています。

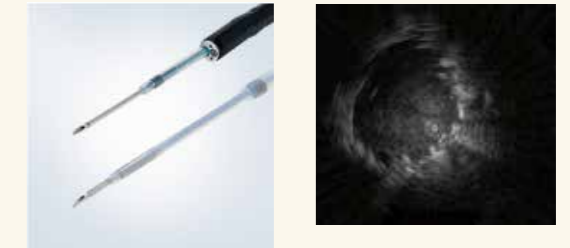
### ▶ 超音波気管支鏡ガイド下吸引針生検 (EBUS-TBNA)

従来、縦隔リンパ節腫大などの気管周囲の病変の診断に関しては、CT などの画像所見を参考に盲目的な経気管支吸引針生検を行っていましたが、EBUS の導入により直接病変を超音波で確認しながら針生検を行うことが可能となり、安全・確実な穿刺を行っています。



### ▶ ガイドシース併用気管支腔内超音波断層法 (EBUS-GS)

末梢病巣の病変を生検する際に、病変へ到達しているかを確認するには、従来、X線透視を用いて行われてきました。現在は、ガイドシースを病変に誘導し、超音波プローブを用いて超音波画像として病変を描出し、生検部位を確認できるようになりました。



## 慢性閉塞性肺疾患 (COPD)

COPDは慢性的な呼吸困難によりADL (日常生活動作) の悪化をきたすことが多く、薬物療法に加えて運動療法や栄養指導、吸入指導、日常生活動作指導などを含めた包括的呼吸器リハビリテーションが有効であると考えられています。

当院では、慢性呼吸器疾患看護認定看護師、呼吸療法認定士の資格を持つ看護師、理学療法士とともに、包括的呼吸器リハビリテーションを行っています。



## 肺炎

肺炎は、現在、日本の死因の第4位となっており、その多くは高齢者とされています。高齢者肺炎は嚥下障害が原因となることが多く(誤嚥性肺炎)、肺炎治療のみではなく、再発の予防が非常に重要となっています。当院では地域包括ケア

の一環として、誤嚥性肺炎に対する病病連携を進めており、阪和第二泉北病院との連携により、急性期治療開始後、速やかに転院の上、嚥下障害の評価や再発予防に必要とされる口腔ケアの継続を行える体制を整備しています。

### 【略歴】

平成 10年 大阪市立大学医学部 卒業  
大阪市立大学医学部附属病院  
平成 11年 和泉市立病院 内科  
平成 12年 育和会記念病院 呼吸器内科  
平成 16年 大阪市立大学大学院医学研究科 卒業  
ベルランド総合病院 呼吸器内科  
平成 23年 ベルランド総合病院 呼吸器内科 副部長  
平成 27年 ベルランド総合病院 呼吸器内科 部長

## 腫瘍内科・呼吸器内科 部長 眞本 卓司

日本呼吸器学会:指導医、専門医  
日本呼吸器内視鏡学会:専門医  
日本内科学会:総合内科専門医、認定内科医  
日本結核病学会:結核・抗酸菌症認定医  
厚生労働省 緩和ケア研修 修了





# 感染対策

## 院内研修会 研鑽

# 医療安全

## せん妄対策

### 求められる感染制御

～薬剤耐性 (AMR) 対策に期待される各職種の役割～



大阪市立大学大学院  
臨床感染制御学  
教授 掛屋 弘先生

9月19日ベルランド総合病院 AIF ホールにおいて、院内感染対策研修会が開催され、207名が参加しました。テーマは「求められる感染制御～薬剤耐性 (AMR) 対策に期待される各職種の役割～」です。前年度に引き続き、大阪市立大学大学院臨床感染制御学教授掛屋弘先生に、柔らかい口調でわかりやすくご講演いただきました。

薬剤耐性 (AMR) は非常に深刻な問題であり、何も対策をとらずにいた場合、2050年には薬剤耐性菌による死亡者は癌による死亡者を超えるといわれています。このような中、医療従事者が何をすべきかについて①徹底した感染制御②院内環境整備③適正な抗菌薬使用の3つの内容でお話ししました。

① 感染制御の基本は手指衛生です。非常に基本的な対策ですが、耐性菌の伝播経路は手で介することがほとんどですので、最も重要といえます。そして、どの職種にも関わることだと強調してお話されていました。

② 環境整備では、多剤耐性菌による汚染がある場合の環境消毒は多大な時間や労力を有することや、作業環境 (我々の労働環境) により菌の定着化を防ぐことが重要であることを聞き、環境整備の必要性を痛感いたしました。

③ 抗菌薬では、抗菌薬選択のポイントや、現在

不足している抗菌薬の現状と今後の傾向について詳しく教えて頂きました。

時々、クイズや笑いも交えながらの講演は、あっという間に過ぎました。参加者の中には深く頷いたり、熱心にメモを取っているスタッフもいました。質問の時間もしっかりとって頂き、1つ1つの質問に対して丁寧に回答して頂いたことで、より一層理解が深まりました。

患者さんに質の高い医療を提供するためには、すべての職員が継続的に感染制御を実施することが重要です。今回の学びを、日々の感染管理につなげたいと思います。

感染管理室 室長補佐 山田 加代子



国立がん研究センター 東病院 精神腫瘍科 科長  
先端医療開発センター 精神腫瘍学開発分野 分野長  
小川 朝生 先生

7月29日ベルランド総合病院 AIF ホールにおいて、国立がん研究センター東病院より小川朝生先生をお招きし、「せん妄対策」について医療安全全体研修会を開催しました。

せん妄とは、脱水、感染、貧血、薬物など、身体に何らかの負担がかかったときに生じる脳の機能の乱れであり、おもに以下のような変化や特徴がみられます。

#### せん妄のときは、こんな変化や特徴があります

- ✓ 意識がくもって、ぼんやりとしている
- ✓ もうろうとして話のつじつまが合わない
- ✓ 朝と夜をまちがえる、病院と家をまちがえる、家族のことがわからない
- ✓ 治療していることを忘れて、点滴などのチューブ類を抜いてしまう
- ✓ おこりっぽくなり、興奮する
- ✓ 見えないものを見えると言ったり (幻視)、ありえないことを言う (妄想)
- ✓ 夜、ねむらない
- ✓ 症状は急に生じることが多く、夜になると症状が激しくなる

また、せん妄は病院に入院している患者さんの20～30%にみられる症状であり、病状が進んだときや看取り (みとり) の時期でその割合は、さらに上昇するといわれています。

せん妄は身体症状のひとつであり、「気持ちの持ちよう」や「こころの問題」ではありません。ぼけてしまったとか、精神疾患になったわけでもありません。適切な治療により、多くの場合、症状が改善するといわれています。せん妄の早期発見のためには、患者さんやご家族にその症状について事前に知っていただき、医療者に異常を早期に伝えていただくことがとても重要となります。

当院でも、手術のすぐあとに治療していることを忘れて、点滴やお腹などに入っているチューブを抜いてしまったり、転倒する患者さんが時折いらっしゃいます。患者さんに安心して治療を受けていただくために、医療安全に関する最新の知見を導入し、職員教育にも力を入れて取り組んでまいります。

医療安全管理室 室長補佐 太田 真希



糖尿病内科・消化器内科・呼吸器内科

Q. 医師を目指したきっかけは？

父親が開業医であり、子どもの頃より医師の仕事を見て、人の役に立てる仕事と実感し医師を目指しました。

Q. 診察の際に心がけていることは？

現在も、近畿大学病院で火曜日の糖尿病内科の外来を担当しています。糖尿病専門クリニックとして正確な情報を提供し、患者さんの状態、希望を考慮した治療を行うよう心がけています。

Q. 地域医療について

医療の進歩は目覚ましく、介護、リハビリテーションも多様化しています。開業医、病院、介護施設が連携し、患者さんに応じたチーム医療をすることが大事だと考えています。

Q. ベルランド総合病院への希望・要望

いつも患者さんの受け入れ時、入退院後を含めて迅速な情報提供をありがとうございます。貴院の外来予約を取らせていただく際、もう少し簡便に予約がとればありがたいです。



星座：水瓶座 血液型 A型  
趣味：旅行

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00 ~ 13:00	●	/	●	●	●	●	/
17:00 ~ 19:30	●	●	●	/	●	/	/

【休診】火曜午前、木曜午後、土曜午後、日曜、祝日  
※受付は診療終了の30分前までとなります。  
※火曜午前は近畿大学病院の  
内分泌・代謝・糖尿病内科の外来に出ています。

住所：大阪府堺市東区日置荘原寺町 216-2  
TEL：072-288-5800

Q. 最後に一言お願いいたします

かかりつけ医として内科はもちろん、総合診療科的な相談をしていただけるよう精進します。

Topics

2019年9月21日

『第9回泉北地区認知症カンファランス』を開催しました

オープニングリマックス & ミニレクチャー  
「認知症と高齢者てんかん」  
ベルランド総合病院 脳神経内科・認知症センター  
部長 西谷信之

特別講演  
「明日から使える！  
認知症やせん妄に対する実践的アプローチ」  
岡山大学病院 精神科神経科  
助教 井上真一郎 先生



新規登録医

登録医件数 413 件  
2019.10.7 現在

北区	藤田内科 ふじた はるのり 藤田 春紀 先生
西区	いしかわ内科・内視鏡クリニック いしかわ まさとし 石川 昌利 先生

医療従事者向け セミナー

11月7日(木)	Diabetes Clinical Forum (ベルランド総合病院 AIF ホール)
11月9日(土)	南大阪骨粗鬆症ネットワーク研究会 (ベルランド総合病院 AIF ホール)
11月21日(木)	泉北耳鼻咽喉科セミナー (ベルランド総合病院 AIF ホール)
11月21日(木)	骨転移・骨粗鬆症の地域医療連携セミナー (ホテル・アゴラリージェンシー堺)
11月28日(木)	TAVI連携セミナー (大阪ベイプラザホテル)
2月8日(土)	第23回ベルランド地域医療懇話会 (ベルランド総合病院 AIF ホール)

いづみ健老大学教養講座にて講演を行いました

市民向け

がん看護専門看護師 江藤美和子

いづみ健老大学市民公開講座にて、ベルランド総合病院 外科部長川崎誠康、薬剤部 科長 がん薬物療法認定薬剤師 星育子、看護部 外来科長 がん看護専門看護師 江藤美和子が講演を行いました。

第1部は、がん看護専門看護師 江藤より、「もしもがんと言われたら～あなたと家族を支えるヒント～」をテーマとし、がんと言われたときのストレスについて、どのように自分の気持ちに向き合うか等お伝えしました。

第2部は、がん薬物療法認定薬剤師 星より、「抗がん剤治療は安全に！」のテーマで、がん薬物療法についての最新の知識、および副作用と対策について講演いたしました。抗がん剤にはつらい副作用があるのではないかとイメージがありますが、それに対する対策についても具体的に示され、受講者の方からもわかりやすかったと好評でした。

第3部は、外科部長川崎より、最新の直腸癌手術について講演いたしました。「直腸癌手術の最前線～手術支援ロボット da Vinci の紹介」をテーマとし、動画を用いて実際の da Vinci 手術の状況について解

説し、受講者の方も興味深く聴講されていました。

現在、がんは2人に1人の方が罹患する時代となっています。今回の講演を通して、もしがんになった場合に、何に備えないといけないかについて具体的に考える機会となったのではないかと思います。今後もこのような機会を通じて啓発活動を行っていく予定です。



外科部長  
川崎 誠康



がん薬物療法認定薬剤師  
星 育子



がん看護専門看護師  
江藤 美和子

第11回ベルランド総合病院緩和ケア研修会を開催しました

医療従事者向け

緩和ケア病棟 科長 島田美香

9月7日に第11回ベルランド総合病院緩和ケア研修会(PEACE 研修会)を開催致しました。PEACE 研修会受講修了者は全国で10万人を超え、今年度から開催指針の改正により、「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」から「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会」へ変更されました。昨年度までは2日間の研修会でしたが、今年度から受講生は e-learning による事前学習を行い、1日でロールプレイ、グループワークを行う集合研修となりました。どの受講生も e-learning 受講の記憶をたどり、真剣にロールプレイやグループワークに取り組んでいました。

e-learning は、受講生の自主性に任せられているので、研修に対するモチベーションが個人に委ねられている傾向にあります。その結果、e-learning の内容について十分に学習できていない部分もある受講生もいました。受講生のモチベーションの維持・向上をどうするか、緩和ケアに携わる機会が少ない受講生のニーズにどう応えるかが、今後の課題と考

えます。受講生がこの研修会で得た知識を実臨床に還元できるようにし、緩和ケアが決して特別なものではなく、またがんでなく、非がんも含め、緩和ケアが必要なすべての患者さんや御家族に届けられるようになるための一助となる研修会を目指しています。2020年度は9月13日(日曜日)に開催予定です。医療従事者の皆様のご参加をお待ちしております。





藍野大学にて講演会講師を務めてまいりました  
テーマ『どう使う？問題解決フレームワーク』

看護部 部長  
前原 陽子

ベルランド総合病院 看護部は、「ぬくもりのある、ゆきとどいた看護の提供」を理念に掲げています。この「ゆきとどく」という言葉には「行ってとどきましょう」という思いがこめられおり、法人全体の理念である「愛の医療と福祉の実現」「地域と職員と共に栄えるチーム」と、院是の「Yu・Ki・to・do・ku」を基盤としてできたものです。

当院では、病床数 477 床に対して約 670 名の保健師・助産師・看護師に加え、救急救命士や介護福祉士、病棟保育士、看護助手などを合わせると約 700 名が、24 時間 365 日、重症度、緊急度の高い患者さんを受け入れて療養していただいています。そして、看護部長を含む 26 名の看護管理者が部署の看護の質に責任をもっています。

日々課題に向き合いながらリーダーシップを発揮していくには、問題解決思考が求められます。しかし、多くの看護管理者が、「問題があることはわかっているが、何から手をつければよいかかわからない」、「問題要因の分析の方法がわからない」、「具体策が思いつかない」などの思いをもっています。

そこで今回、2016 年から藍野大学の認定看護管理者研修ファーストレベルの講師を担当していたことがきっかけで、ファーストレベル・セカンドレベルスキルアップ研修として、2019 年 7 月 27 日、『どう使う？問題解決フレームワーク』というテーマで講師をさせていただき、62 名のご参加をいただきました。

研修を終えたアンケートでは、「必要な知識が確認できた、もっと長い時間でもいい、とても参考になった」などの御意見とともに、満足な評価をいただけたのでほっとしました。

看護管理者が、よりよい看護を求めて学習する姿は、看護部長としての責任を再認識する貴重な機会となりました。医療の進歩はますます加速し、看護職員を取り巻く社会環境も変化してまいりますが、「ぬくもりがあり、ゆきとどいている」と地域の皆さまが感じていただけるように、日々努力していく所存であります。



藍野大学 キャリア開発・研究センターにて



地域在宅医療支援者研修

テーマ『深めよう判断能力！救急車呼ぶ？呼ばない？』

—SNSでは解決できない在宅でのお困りごと解決します』

ベルランド総合病院のリソースナース会は 11 分野の認定看護師、2 分野の専門看護師が協力し、院内外の看護の質の向上のために活動しています。リソースナースとは、より良い医療提供のためにキーパーソンとして活動する専門性の高い知識・技術を持つ看護師を指します。

当院では、患者さん本位のゆきとどいた救急医療サービスを提供できるよう取り組んでいます。リソースナース会でも地域の医療従事者の方々の連携を深め、地域で活躍されている医療や介護の従事者の方々のお役に立つことを目的に、専門看護師・認定看護師による各種研修を開催しています。

地域包括システムの中では「時々入院、ほぼ在宅」を勧められていますが、高齢者施設の利用者の高齢化が進むとともに、利用ニーズが増加する中、スタッフの方による重症度の判断や、救急搬送の判断を迷われることが増えてくると推測されました。

今回は、「もしもの時の救急時の連絡方法やタイミング」など、在宅領域での判断能力を高め、救急搬送における介護・医療従事者の情報共有を目的に地域在宅支援者研修を開催致しました。今回のテーマは救急時の判断とし、「深めよう判断能力！救急車呼ぶ？呼ばない？SNSでは解決できない在宅でのお困りごと解決します」としました。

救急医療を「地域」という視点から、救急看護・心不全・脳梗塞・がん分野のそれぞれの立場のリソースナースが講義を行いました。また、救急時の対応やフィジカルアセスメントの方法を演習し、がん患者さんの最期の時をどのように過ごしていくのかを語ってもらう、今までにない研修となりました。堺市を中心に訪問看護ステーション・療養型病院・特別養護老人ホーム・地域支援センターから 27 名の地域の医療、介護従事者の方々にご参加いただき、共に学ぶことのできた有意義な午後のひと時となりました。

実際の現場では搬送前後に問題が隠れていることも多く、防ぎ得る救急搬送も多く存在します。今後も病院と地域の交流をより進めていき、地域の総合的な力で一人でも多くの患者さんがより良い生活を過ごしていけるように支援していきたいと思っています。

がん化学療法看護認定看護師 中村 充代



各領域の演習・グループワークを行いました





講演会  
開催報告

第14回泉北地区病診連携皮膚科の会



近畿大学医学部  
皮膚科学教室 講師  
伊谷善仁 先生

今年も7月13日に、第14回泉北地区病診連携皮膚科の会がホテル・アゴーラリージェンシー堺において開催されました。この会は、毎回多職種の方々に参加していただいております。第14回を迎えることができました。皮膚科疾患は、患者さんが医師だけでなく他の職種にも相談する機会が多いため、関心の高い人気セミナーとなっていると思われま

す。特別講演Ⅰでは「顔面の知っておきたい皮膚腫瘍」と題して、近畿大学医学部皮膚科学教室講師の伊谷善仁先生が、たくさんの症例の画像を提示しながら、顔面に発生しやすい腫瘍や見逃してはいけない腫瘍をわかりやすく解説されました。

また、特別講演Ⅱでは「知っておきたい！アレルギーとスキンケア最新情報」と題して、島根大学医学部医学科皮膚科講師の千貫祐子先生がご講演されました。経皮感作による小麦粉アレルギーのお話や、牛肉アレルギーの発症原因の一つにマダニ咬傷が関与したり、牛肉特異的IgE検査により抗EGFR抗体薬であるセツキシマブのアナフィラキシーを未然に防ぐことが可能であるなど、興味深い研究成果を次々と診療に結びつけておられることに感動いたしました。また、アレルギー性皮膚炎のプロアクティブ療法と外用薬の使用方法なども具体的にご説明いただき、皆さん熱心に聞いておられました。

千貫先生の「全ては、目の前の患者さんを一生懸命診療することから始まります。」という言葉通り、患者さんの一言一言を情報と捉え、マダニに



島根大学医学部 医学科  
皮膚科 講師  
千貫祐子 先生

噛まれた人がいれば自ら診察しマダニまで収集され、アレルギーの解析に仮説を立てて、仮説を立証していくという方法でアレルギーの謎を解明していると話し下さいました。私を含め会場にいらした医療者の心をくすぐり、私たちが何か患者さんの役に立つことができるのではないかと、患者さんに向かい合ってみよう！というエネルギーが湧いてきました。

薬剤部 科長 星育子

information

医療従事者向け講演会 開催のお知らせ

第23回  
ベルランド地域医療懇話会

日時：2020年 2月 8日(土) 14:00～15:30  
場所：ベルランド総合病院 地下1階 AIFホール

開会挨拶 ベルランド総合病院 院長 亀山 雅男

当院診療科のご紹介

- 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 部長 三上 慎司
- リハビリテーション科 部長 大島 和也
- 産婦人科 部長 大西 洋子
- 総合診療外来 部長 丸山 克之

閉会挨拶 ベルランド総合病院 副院長 謝 慶一

※当日は軽食をご用意しております。  
※大阪府医師会生涯研修システムに登録予定しています。

問い合わせ先：ベルランド総合病院 地域医療連携室  
TEL：0120-13-9215 FAX：0120-53-0096

社会医療法人 生長会  
ベルランド総合病院

今年も当院と地域の医療従事者の方々との  
より良い連携を図るため、懇話会を開催させていただきます。  
どうぞお気軽にご参加くださいますようお願いいたします。

